

北海道更別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・各科目における学習および農業クラブ活動を通して、職業人としての資質向上をはかり社会に必要とされる人材育成を行います。	・三大行事に対する事前学習をタブレットを活用し行った。技術競技大会鑑定競技では、効率的な指導が功を奏し全国大会農業鑑定競技分野生活で優秀賞を獲得した。	・タブレットを更に活用し、生徒全体が意欲的かつ効率的に学習に取り組めるよう努める。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	・農業高校生海外研修事業をとおり、異なる国の農業や文化に触れ、世界と日本について考えます。	・生徒が海外で実習する機会はなかった。しかし、昨年に引き続き、JICAとの連携によりラオスからの研修生が来校し、同国の農業や文化に触れた。草花を活用したレジン作成を行い交流を深めた。	・世界情勢や感染症の状況を見定め、実現可能なグローバルな取組を実践する。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の生産基盤や環境の特徴を理解し効果的な生産活動に努めます。 ・インターンシップにより職業観を育成するとともに、関係機関と連携し農業にかかわる人材育成を目指します。	・花豆栽培でJGAP認証取得を実施した。畜産分野においてもGAPの学習を進めている。 ・インターンシップは、各事業体と連携し6月に実施した。	・JGAP維持審査に向けた準備の充実を図る。 ・インターンシップにおいては、外部としっかり連携し、実施する。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	・地域の特産品および資源を研究教材としたプロジェクト活動をとおり、食品関連企業等と連携を深めます。	・校内で採取したナタ菌を用いて製造したナタデココ入りの新商品として羊羹とヨーグルト製造に取り組んだ。レトルトカレーは、道産子プラザでの販売会で高評価を得た。	・食品関連企業と連携を継続し、発展的に取り組めるようにする。 ・衛生的な食品製造体系および科学的な食品検査態勢を徹底する。	3
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・地域の基幹産業である畑作・畜産の学習をとおり、農業を起因とする環境問題について学びます。 ・圃場の輪作体系を考慮し、緑肥作物（ひまわり）を栽培します。	・輪作体系の作物栽培学習、環境に配慮した乳牛の飼養管理を行った。牧草と飼料用トウモロコシを栽培調製し、自給飼料生産に努めた。緑肥としてヒマワリを栽培し、地力増進を進めた。	・専門機関と連携して、学校農場を活用した持続可能な循環型の農業経営についての学習を展開する。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域資源を活用した加工品開発と地域イベントへの参加で、地域に貢献する活動を行います。 ・草花栽培をとおした交流学習を3回以上（幼稚園、小学校、高齢者）行います。	・校内や十勝管内はもちろん、大阪、東京、札幌の販売会に参加した。外部の方から高評価を得た。 ・草花栽培に取り組み、花壇造成を幼稚園・小学校・道の駅等で実施した。	・地域との交流学习を進め、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、外部による評価を得て、今後の教育活動に生かす。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	・作物栽培において、ICT技術を活用したスマート農業について学習を行います。	・国際農業機械展を全校で見学した。スマート農業技術を活用したひまわり迷路を制作した。また、農業機械メーカーや農業経営者による講演会を実施した。	・ICT技術を活用した農業経営を生徒が理解し実践できるように事前事後の指導を徹底する。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・常に防災意識を持ち、不測の事態に冷静に対応できる態度を育てます。	・胆振東部地震で被災された方を講師としてお迎えし、講演および座談会を実施した。また、自衛隊による炊き出し体験を実施し、生徒に高い防災意識を身に付けさせることができた。	・事前事後の学習はもちろん、常に防災意識を持って日頃の生活に取り組めるよう指導する。	5